

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態																											
エンドオブライフケア学特論Ⅲ(小児看護)	1	前期	2	講義 30時間																											
担当教員	大野知代、吉野妙子																														
授業概要	乳幼児期、学童期、青年期とその家族を発達学的視点でとらえ、プライマリケアニーズを予測した健康教育と小児期に罹患しやすい疾病に関する高度な看護実践と生まれ育つ環境と成長発における依存と自律の概念に基づく子どもと家族の健康増進を行う知識・技術を学修する。さらに小児の健康問題に関して病院施設と地域とをつなげ生活を基盤とした持続的なケアシステムの構築やその評価方法を学修する。																														
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外を対象に子どもと家族の健康課題および小児保健看護の変遷を説明できる。 2. 子どもの医療・福祉・教育に関する法や制度、政策の歴史と現状を説明できる。 3. 子どもの疾病予防と健康増進のための活動、育児支援の現状と課題を説明できる。 4. 子どもの発達、障害に関する諸理論を用いて、子どもによくみられる疾病や症状、その対処方法とその家族を含めた看護援助を説明できる。 5. 多職種連携による育児支援、発達支援、健康増進、疾病予防活動について説明できる。 																														
履修条件	特になし																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>大野</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国内外の小児医療・福祉・教育、および小児保健・看護の歴史的変遷と課題</td> <td>大野</td> </tr> <tr> <td>3-4</td> <td>・小児に関する法律および小児保健・医療・福祉・教育制子どもの権利の現状と課題 ・子どもの発達、家族に関する諸理論と小児保健・看護への応用の可能性と課題</td> <td>大野</td> </tr> <tr> <td>5-6</td> <td>・子どもの成長・発達及び健康障害のアセスメントと評価</td> <td>大野</td> </tr> <tr> <td>7-8</td> <td>・子どもによくみられる疾病の特徴と看護援助(糖尿病・気管支喘息・アレルギー・感染症・ネフローゼ症候群・白血病・てんかん) ・子どもによくみられる症状の特徴と看護援助(発熱・脱水・呼吸困難・けいれん・嘔吐/下痢・不機嫌)</td> <td>吉野</td> </tr> <tr> <td>9-11</td> <td>・地域で生活する子どもと家族を取り巻く社会環境、多職種連携による子どもの発達支援・疾病予防・育児支援・健康増進のための現状と課題 ・病気・虐待・発達障害等の子どもの特徴とエンドオブライフケア</td> <td>大野・吉野</td> </tr> <tr> <td>12-14</td> <td>子どもに関わる多様な対象のヘルスプロモーションと健康教育の支援の実際(企画・運営・評価方法について)</td> <td>大野</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>発表・討議：地域で生活する子どもの「いのちの健康教育」の実際と今後の課題</td> <td>大野</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	担当教員	1	オリエンテーション	大野	2	国内外の小児医療・福祉・教育、および小児保健・看護の歴史的変遷と課題	大野	3-4	・小児に関する法律および小児保健・医療・福祉・教育制子どもの権利の現状と課題 ・子どもの発達、家族に関する諸理論と小児保健・看護への応用の可能性と課題	大野	5-6	・子どもの成長・発達及び健康障害のアセスメントと評価	大野	7-8	・子どもによくみられる疾病の特徴と看護援助(糖尿病・気管支喘息・アレルギー・感染症・ネフローゼ症候群・白血病・てんかん) ・子どもによくみられる症状の特徴と看護援助(発熱・脱水・呼吸困難・けいれん・嘔吐/下痢・不機嫌)	吉野	9-11	・地域で生活する子どもと家族を取り巻く社会環境、多職種連携による子どもの発達支援・疾病予防・育児支援・健康増進のための現状と課題 ・病気・虐待・発達障害等の子どもの特徴とエンドオブライフケア	大野・吉野	12-14	子どもに関わる多様な対象のヘルスプロモーションと健康教育の支援の実際(企画・運営・評価方法について)	大野	15	発表・討議：地域で生活する子どもの「いのちの健康教育」の実際と今後の課題	大野
回	内容	担当教員																													
1	オリエンテーション	大野																													
2	国内外の小児医療・福祉・教育、および小児保健・看護の歴史的変遷と課題	大野																													
3-4	・小児に関する法律および小児保健・医療・福祉・教育制子どもの権利の現状と課題 ・子どもの発達、家族に関する諸理論と小児保健・看護への応用の可能性と課題	大野																													
5-6	・子どもの成長・発達及び健康障害のアセスメントと評価	大野																													
7-8	・子どもによくみられる疾病の特徴と看護援助(糖尿病・気管支喘息・アレルギー・感染症・ネフローゼ症候群・白血病・てんかん) ・子どもによくみられる症状の特徴と看護援助(発熱・脱水・呼吸困難・けいれん・嘔吐/下痢・不機嫌)	吉野																													
9-11	・地域で生活する子どもと家族を取り巻く社会環境、多職種連携による子どもの発達支援・疾病予防・育児支援・健康増進のための現状と課題 ・病気・虐待・発達障害等の子どもの特徴とエンドオブライフケア	大野・吉野																													
12-14	子どもに関わる多様な対象のヘルスプロモーションと健康教育の支援の実際(企画・運営・評価方法について)	大野																													
15	発表・討議：地域で生活する子どもの「いのちの健康教育」の実際と今後の課題	大野																													
教科書	特になし																														
参考書	適宜必要に応じて紹介																														
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション(30%)、講義および討議への内容(20%)、レポート(50%)とし、到達目標の達成度を含めて総合的に評価する。																														
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみることに。																														